

複合機再生事業の拡大に向けた取り組みが
リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰で経済産業大臣賞を受賞

キヤノン株式会社（以下「キヤノン」）およびキヤノンエコロジー・インダストリー株式会社（以下「キヤノンエコロジー」）は、リデュース・リユース・リサイクル推進協議会が主催する「令和6年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」において、複合機再生事業の拡大に向けた取り組みが評価され、経済産業大臣賞を受賞しました。



市場稼働時のデータを活用し回収・再生を効率化



高い部品リユース率を実現した再生複合機

キヤノンは、回収した使用済み複合機を独自の技術で新品同様に再生し、商品化する複合機再生事業を、1992年から行っています。国内においては、2004年にキヤノングループのリユース・リサイクル事業を集約し、環境拠点として設立されたキヤノンエコロジーで2005年から複合機再生事業を展開し、その取り組みが2008年に本表彰の会長賞を受賞しています。今回の受賞は、複合機再生事業を長期にわたり継続させるために、再生複合機の「環境性能（高い部品リユース率）」、「新品同様の高品質・高性能」、「低価格」を高いレベルで実現した点が評価されました。

これらの実現のために、具体的には、「市場稼働時のデータ活用」と、「プラットフォーム型開発の導入」の2つの取り組みを行っています。「市場稼働時のデータ活用」では、回収した複合機の稼働年数や部品交換履歴、プリント枚数などといった稼働時データに基づいて、部品の再使用可否をシステムが自動判定しています。交換が必要とされる部品がリスト化されたカルテが生成され、それに基づいた再生を行うことで、再使用できる部品を最大限活用しています。「プラットフォーム型開発の導入」では、新製品の設計から見直しを行い、製品のクラスごとに本体の骨格の統一化を進めています。部品・ユニットの共通化はもちろん、分解や組み立てなどの工程も共通化できるため、回収した後に再生しやすい構造を実現しています。2つの取り組みにより、再生複合機の品質の維持、再生工程の効率化を図るとともに、部品リユース率については、2024年では最大約95.5%に向上^{※1}しています。

キヤノンはこれからも複合機再生事業の活動を継続・拡大することで、資源循環の向上に取り組んでいきます。

〈リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰について^{※2}〉

循環型社会の形成推進を図ることを目的に、1992年から実施されています。リデュース（発生抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（再資源化）に積極的かつ継続的に取り組み、顕著な実績を挙げている企業や個人を表彰することでリデュース・リユース・リサイクル活動を奨励しています。

※1 対象機種は「imageRUNNER ADVANCE C3530F III-RG」（2024年8月発売）

※2 詳細はホームページ（<https://www.3r-suishinkyogikai.jp/commend/commend/>）をご参考ください。

〈複合機再生の工程〉



①回収

オフィスで不要になった複合機を回収し、キヤノンエコロジーをはじめとするリサイクル拠点に集約。



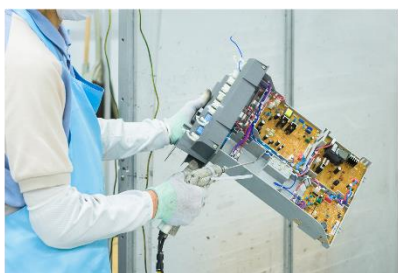
②受け入れチェック

回収された複合機の市場稼働データを瞬時に読み取り、再生可能か自動判定し、基準をクリアした複合機のみ再生。



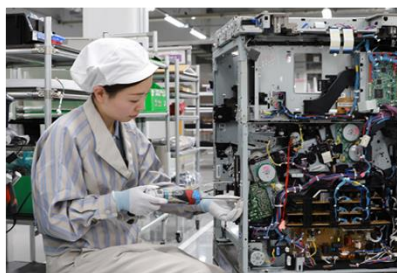
③分解

カルテを利用して必要最低限の交換部品を判別し効率の良い分解を実現。



④清掃

分解した部品などを機械・工具などを使って基準を満たすまで清掃。



⑤組み立て

カルテを利用して劣化・摩耗した部品を、再生部品または新品に交換し、製品を組み立て。



⑥調整・検査

全ての機能が適切に動くように調整・検査を実施。新しい部品のみで作られた製品と同じ水準で品質を確認。



⑦梱包・出荷

厳格な基準をクリアして完成した再生複合機を丁寧に梱包し、市場へ出荷。

〈複合機再生の工程紹介動画〉

複合機再生の工程を紹介する動画を公開しています。

<https://www.youtube.com/watch?v=HRS94G6j27Y&t=127s>